

[横浜市民ギャラリー]
令和 6 年度業務報告及び収支決算
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業 ○：共催事業 を示します。
 ※ 文中の達成指標欄において、
 □：定量的指標 ■：定性的指標 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜市民ギャラリー
所在地	横浜市西区宮崎町 26-1
構造・規模	鉄筋コンクリート 4 階建（地下 1 階～地上 4 階）
敷地・延床面積	敷地面積 2,301.11 m ² 、延床面積 3,428.44 m ²
開館日	平成 26 年 10 月 10 日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団／西田装美株式会社共同事業体
代表団体所在地	横浜市中区山下町 2 番地
代表団体代表者	理事長 近藤 誠一
代表団体設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現指定管理者（代表団体）の 管理運営開始日	平成 8 年 4 月 1 日から

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針 ※原則 5 年間（令和 4 年度-令和 8 年度）変更なし

1964 年の開館以来、日本で最初に「市民ギャラリー」を冠した施設として、市の芸術文化発展の一端を担い親しまれてきた歴史の継承と、未来へ向けた文化芸術政策への貢献を念頭に、第 4 期指定管理期間に課せられた「6 つの使命」の実現に向けた取組を展開します。

「市民のためのギャラリー」であるからこそ可能である、市民の文化活動を支え、次世代育成を重視し、地域と連携しながら「誰もが芸術文化に触れることができる機会」を提供します。

また、市民の貴重な財産である収蔵作品の保管環境の改善と修復等について市と緊密に情報共有を行うとともに、自主事業を通じてその魅力を伝えていきます。

「変わらない安心と変わる勇気」をもって、持続可能な施設運営を目指し、安心・安全で快適な環境づくりに努めます。

(2) 令和6年度の業務の取組報告 ※年度当初に事業計画で設定した方針に対する報告

ア 全体について

令和6年度は、「開館60周年」を迎える記念の年でした。「日本で最初に『市民ギャラリー』を冠した施設」「横浜市初の公設文化施設」として、長きにわたり横浜市の芸術文化発展を担ってきた当館の歴史を周知する機会ととらえ、記念ロゴの作成、周年を周知するプレスリリースの発信を皮切りに、年間を通じて「60周年の演出」を行うことにより、当館のプレゼンス向上をはかりました。

同時に、第4期指定管理期間の中間年(3年目)において、業務の基準に掲げられた「6つの使命」達成に対し、利用者の文化活動発現の場としての「貸館事業」、展覧会・ワークショップ・レクチャー・連携事業及び収蔵作品の適切な管理・保存等の「自主事業」双方において、今まで培ってきた経験やノウハウを活かして成果を得た1年間となりました。

施設の維持管理面では、経年劣化への対応、感染症対策等の施設運営全体に通底する、日々の地道な対応を着実に遂行し、安全性を確保しました。

当財団の中期経営計画で掲げられている「社会課題解決に貢献する文化施設」の在り方を見据え、当館の活動が市民の日常生活に潤いをもたらし、活力増進に貢献する「地域に根差したギャラリー」として認識を深めた一年となりました。

イ 使命1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する：市民の皆さんに美術を中心とした文化芸術活動を創作、体験、発表する場を提供することで、市民の文化芸術活動を支援し、文化活動人口(文化活動の支援者を含む)の増加に寄与する。

■ 利用者の立場に寄り添った細やかで丁寧な施設の貸出業務を通じ、市民が主体となって取り組む芸術文化活動を支援しました。身近な「晴れの場」、「人と人が交流する喜びを生む空間」となるような運営を心掛けることにより、「貸館事業」として多彩なジャンルの展覧会が開催されました。

また、当館がハブとなり公設・私設を問わない美術施設の展覧会情報を集約し発信する事業を引き続き実施し、横浜市内で芸術文化活動を展開する関係者支援に尽力しました。

若い世代を中心とした新たな施設利用者及び来場者獲得に資する事業展開についても、徐々にですがその成果が表れ始めています。

県民ホールギャラリーや新高島駅 B1F 展示場等の休館に伴い当館利用を新規に希望する団体と、継続的に利用する団体のどちらに対しても公平な施設貸出を継続するために、厳正なる申込抽選会をはじめとした施設運営を維持しました。

ウ 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する：美術を中心とした、芸術文化に触れる機会を提供することで、新たな気付きや発見を促し、多様な価値観を受け入れる文化の醸成に貢献する。

■ 開館以来60年間に渡り横浜の文化醸成の一翼を担い「現代美術」を牽引してきた伝統を未来へ繋ぐことを念頭に、同時代に活動する作家の表現を紹介する展覧会を開催しまし

た。あわせて、幅広い世代のニーズに応えるべく、多種多彩なワークショップ、レクチャーを実施するとともに、開館 60 周年を記念した講座も行いました。

また、地域で活動を展開する団体（町内会、公共施設、教育機関、画廊、神社仏閣、保育園等）と分野を越えて繋がり、相互に様々な価値観に触れるコミュニティ醸成の機会提供に寄与すべく、共催事業、連携事業及び情報交換を多彩に展開しました。気軽にアートに親しむ空間作りの一環として、エントランスの演出にも工夫を加えました。

エ 使命 3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる：収蔵作品の調査研究に取り組むとともに、計画的かつ適切な管理・保存等を行うことにより、収蔵作品を次世代へ継承する。また、収蔵作品の活用を積極的に行い、美術に対する関心を喚起する機会を創出する。

- 当館の収蔵作品は、横浜市の美術史にとって大変重要な位置を占めるものであり、市民の貴重な財産です。作品が制作された当時の時代性が反映された表現は、過去を知る手がかりとなり現代においても新たな視点をもたらします。このような認識のもと、収蔵作品は、データベースを更新・管理し調査結果を反映しています。また、専門家とのやり取りを密にし、修復やクリーニングを順次実施しています。

今年度は開館 60 周年であることも念頭に、各種自主事業を通じ収蔵作品を活用し関心を喚起する機会創出に注力しました。また、収蔵作品を次世代へ継承するため、作品の状態及び修復の必要性や収蔵庫の状況改善などについて、横浜市と協働し取り組みました。あわせて、収蔵作品の価値を広く一般に周知するために、収蔵作品検索ページのサムネイル画像の公開範囲を順次拡充に加え、全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」への所蔵作品情報公開を実現しました。

オ 使命 4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる：次世代育成を中心に、美術を中心とした文化に触れる機会を提供し、豊かな感性を育む。

- 次世代を担う子どもたちが芸術文化活動を体験することを通じ、自由な発想と豊かな表現を育み、その健やかな成長を通して生涯にわたり芸術文化に親しむきっかけを創出すべく、応募作品を無審査で展示する展覧会や年代に合わせた多種多様なワークショップを開催しました。

また、学生インターンを受け入れ、芸術文化振興を担う実際の現場に触れる経験を通じ、キャリア形成を支援しました。市民ボランティアの方々にとっては、当館の運営活動に関わることが生活の彩りの一つとなったのではないかと考えます。さらに、中学生の職業体験を受け入れるなど、多様な世代の学びや体験の場を提供しました。

カ 使命 5 持続可能性を高める施設運営を行う：法令等に則った施設の保守・点検や日常的な予防的修繕などの維持管理を行い、安全で快適な施設を維持する。また、効率的な経費の執行や収入増の取組等により、安定的な施設運営を行う。文化施設としての専門性を発揮し、市民の皆さんに親しまれる施設となる。

- 快適な施設環境と来場者の安全を第一とした運営を心掛けました。文化施設運営に豊富な経験を持つ事業体として、築37年になる施設の状況を的確に把握し持続可能性を高めるための修繕や維持計画に横浜市と協働し取り組みました。

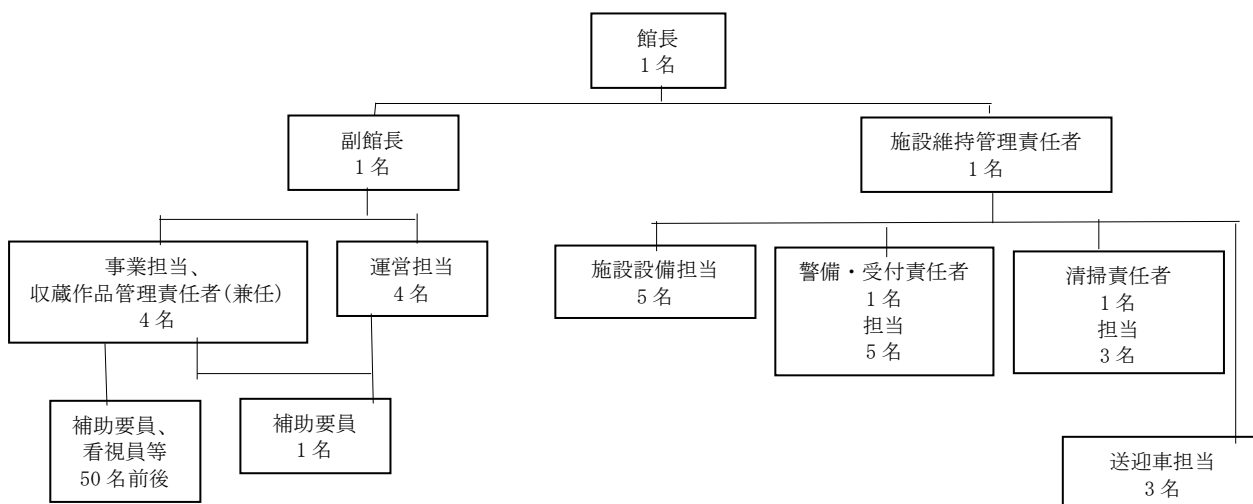
また、IPM（総合的有害生物管理）の手法を通じた管理を確実なものとするべく、関係者が集う会議を定例開催しました。担当職員の文化財 IPM コーディネーター資格取得も順次行っています。

あわせて、法定の年2回の防火・防災訓練をはじめ、人権研修などを開催し、職員の知見と技術の向上に努めました。

- キ 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する：新型コロナウイルス感染症の影響が長期化した場合には、徹底した感染防止対策の下で、安全に貸館事業及び自主事業を実施し、市民の文化活動の基盤としての施設運営を継続する。

- 新型コロナウイルス感染症自体は「第5類」となり、「ウィズコロナ」の生活様式にフェーズが移行しましたが、時流に即した衛生管理や対策を徹底することで、市民の皆さんの芸術文化活動の安全を担保する運営に注力しました。

4 運営組織の構造、人員配置



統括責任者である館長の下に、事業、運営系に横浜市芸術文化振興財団の職員、施設維持管理系に西田装美株式会社の社員（送迎車は平和交通株式会社に委託）を配置しています。

組織内の情報共有を密に行い共同事業体としての専門性、強みを活かした体制を維持しています。

5 収支

一昨年、昨年度に同様に光熱費の高騰等が続いていますが、横浜市の指定管理料増や駐車場料金等の貸館利用料以外の収入獲得、経費削減により適切な収支バランスを維持しました。

6 各種計画書・報告書の作成及び業務評価

各種計画書・報告書につきましては、都度横浜市と協議し適切に提出いたしました。

7 使命の指標の達成状況と重点的取組事項

(1) 使命 1 文化芸術活動を促進するため、活動の場を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設利用率（展示室及びアトリエ）	展示室	89%	95%以上	89%	88%	—	95%以上	—
		アトリエ	63%	44%	58%	65%	—	45%	—
2	総来場者数		16.6万人	25万人以上	17.4万人	18.3万人	—	25万人以上	—
3★	新規利用登録団体数（展示室、アトリエ共通）		28件	20件以上/年	22件	21件	—	20件以上/年	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者、来館者の状況についての現状把握	R 4 実績	「お客さま台帳」の整備を進めました
		R 5 達成指標	「お客さま台帳」の作成やアンケート調査を行い、ニーズを把握
		R 5 実績	「お客さま台帳」を完成し稼働しました。引き続き、アンケート調査を行い、ニーズを把握しています。
		R 6 実績	「お客さま台帳」を更新しました。引き続き、アンケート調査によりニーズを把握し運営への反映に取り組みます。
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	把握したニーズが運営に反映されている
		R 8 実績	—

ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組んだ事項

- ① ご利用団体の活動をサポートする取組

施設（展示室・アトリエ）をスムーズにご利用いただけるよう、利用者の方々とのコミュニケーションを密に図りながら貸館運営に取り組みました。令和6年度は、新規の個人・団体の利用登録は21件でした。貸館稼働率は、今年度は前年度比99%となり、コロナ禍からの回復傾向が見られますが、年末年始の空室がある等課題も残りました。次年度（7年度）は、県民ホールギャラリー等の休館に伴い、既に更なる利用率増が見込まれています。今後も、きめ細かい貸館サポートに取り組んでいきます。またアンケートで希望が多い飲食場所の増設については、状況をみながら実施していきます。

②情報発信支援

『アートヨコハマ』『横浜画廊散歩』『ヨコハマ・ギャラリー・マップ』において、横浜市内におけるアートシーンの情報発信を広く行いました。

また、貸館利用での展覧会情報の発信については、当館ホームページ、Facebook、Xにて展覧会初日に展示の様子が伝わる会場風景写真を公開するなどの広報支援を行いました。

③新たな表現者、鑑賞者を迎える取組

将来を担う若手作家に対し、発表の場の提供と広報等の支援を行う「U35 若手芸術家支援事業」を令和2年より実施しています。今年度は、石井和哉個展「鈍く抵抗する絵画」を開催しました。

④芸術文化に触れるきっかけづくり

開館60周年に合わせ、提案書で掲げていた「いりぐちギャラリー」をエントランスロビーに新設し年度中に4回展示替えを行いました。横浜市民ギャラリーの歴史やこれまでの活動を、写真やパンフレットなどの資料により紹介し、気軽に活動内容を知っていただくことでプレゼンス向上を目指しています。

エ 使命1の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
ご利用団体の活動をサポートする取組【貸館事業】	① 利用者、来館者の要望を把握するために毎会期アンケートを実施しました。 ② 他施設の休館に伴う既利用団体と新規利用団体の公平性の担保	① アンケート内容を把握し、貸館運営に活かせるものは毎週の展示撤去作業打合せの際に共有しました。 ② 厳正なる抽選を実施し公平な施設利用を実現しました。	・アンケートに多数記載がある送迎車乗場の表示が掲出できないことから、より丁寧なご案内を継続します。 ・飲食場所の設置の要望も多いですが、美術施設としての環境の維持を確保しつつ、すり合わせていきます。
情報発信支援【広報誌発行】	① アートヨコハマ（横浜市民ギャラリーの総合情報誌）年3回発行。	① 市民ギャラリーの自主事業・講座・展示室の展覧会情報等の記事を掲載し、市民の皆さまに活動内容を紹	・印刷代、郵送代の高騰により、頁の減少、発行部数を減らして対応しています（アートヨコハマ・横浜画廊散歩）

	<p>② 横浜画廊散歩(市内の展覧会情報を掲載する情報誌)偶数月(隔月)年6回発行。</p> <p>③ ヨコハマ・ギャラリー・マップ(横浜市内約130の画廊・美術施設の基本情報を地図で紹介。横浜画廊散歩に掲載されている画廊・ギャラリーの施設情報として一体的に機能しています。年1回発行。</p>	<p>介。昨年は、横浜市民ギャラリーは60周年を迎えたため、80号を記念号として特集を組み、今までの歩みを紹介しました。</p> <p>② 市内の美術画廊等の展覧会情報を無料で周知できる情報誌として利用いただき、ギャラリー等の宣伝ツールとして一役買っています。また、美術愛好家の画廊巡りに愛読されており好評を得ています</p> <p>③ 市内の美術施設、画廊等の施設情報をマップ上で紹介することで横浜は芸術・アートの街であることを発信するとともに、横浜画廊散歩と連動することにより宣伝効果が得られます。</p>	<p>・ヨコハマ・ギャラリー・マップに登録施設約130施設のうち、横浜画廊散歩への展覧会情報提供は昨年度から徐々に減少しはじめたため、昨今はメールで展覧会情報提供依頼を実施しています。</p>
<p>新たな表現者、鑑賞者を迎える取組【U35】</p>	<p>作家初の個展を開催</p>	<p>開催に向け、チラシ作成を初め、展覧会場のレイアウトに対するアドバイスなど、開催までに様々なサポートを行いました。</p>	<p>問合せがあるのを待つ状態であるため、年1回確実に開催できるようにするための広報PR強化が必要です。</p>
<p>芸術文化に触れるきっかけづくり 【ホームページ、YouTube、SNSでの情報発信】</p>	<p>・ホームページにおいて、市民ギャラリーで開催される貸館展覧会情報、市内美術施設の基本情報・開催展覧会情報を継続公開・更新しています。</p> <p>・同じくホームページの収蔵作品検索や事業アーカイブページを公開・更新しています。</p> <p>・SNSでは自主事業のほか、貸館展覧会の情報を展示写真付きで告知。自</p>	<p>・ホームページでの情報公開により、電話でのお問合せにもスムーズに対応でき、サービス向上につながっています。</p> <p>・収蔵作品や事業アーカイブページをご覧になった美術関係者からのお問合せが以前より増加しています。</p> <p>・「新・今日の作家展」作家インタビュー動画閲覧数が多く、注目度の高さが伺えます。(閲覧数：布施843回、落合459回 ※3/31時点)</p>	<p>・SNSでの情報発信について、効果的な活用方法の検討が必要。</p> <p>・ホームページは2020年度にリニューアルしてから次年度で5年となるため、次のリニューアルの必要性や内容等について検討準備が必要です。</p>

	主事業関連作家の活動も紹介しています。 ・YouTube では収蔵作家や企画展作家のインタビューや活動報告等の動画を公開しています。		
--	---	--	--

(2) 使命2 文化・芸術の鑑賞の機会を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	自主事業への参加人数	4,960人	4,000人以上	4,810人	5,346人	—	4,000人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.7	満足度調査平均4.0以上	4.7	4.8	—	満足度調査平均4.0以上	—
3★	5館連携事業「横浜・紅葉ヶ丘まいらん」、アートなお散歩支援事業、地域連携事業などで新たに連携する団体	3団体	3団体	3団体	4団体	—	5団体	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	インタビュー手法について検討
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 6 実績	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—

ウ 使命2を達成するために重点的に取り組んだ事項

① 同時代の多岐にわたる表現を多角的に紹介

- 新・今日の作家展2024「あなたの中のわたし」

布施琳太郎、スクリプカリエウ落合安奈の作品を紹介しました。布施は、横浜市民ギャラリー開設の翌年発表された横浜市六大事業の構築に携わった建築家・浅田孝の思想に発し、見る人によってさまざまな気づきや疑問が沸きあがるような空間構成での展示となりました。スクリプカリエウ落合安奈は日本とルーマニアにルーツを持ち、母で写真家の落合由利子とのコラボレーション作品を出品するとともに、2023年に初発表した作品に新作部を交え再構成した作品を発表しました。関連イベントでは、作家2名によるミニトーク、学芸員トークが行われたほか、それぞれゲストとの対談が行われ、制作や背景の理解を深める機会となりました。会期中に好評を得た作家インタビューなどに加え、展示の様子やイベントの書き起こしを掲載した記録集を発行しました。

② 芸術文化に親しみ、集い、様々な背景を持つ人との交流を促す

□ 大人のためのアトリエ講座

引き続きクロッキヤを定例開催するにあたり、今年度はその入門講座を開設し初心者が気軽に取り組める環境を作りました。油絵、金継ぎ、銅版画石膏刷り等に加え「キッチンリトグラフ」、小さな子どもを持つ親を対象としたレクチャーなど、当館ならではの特色ある事業も実施しました。

また、開館60周年を記念して、当館の変遷や紅葉ヶ丘周辺の文化施設を軸に、建築で横浜の歴史をひもとく講座を開催し、普段当館との接点が薄い方々も含め多くの参加者を迎えました。

③ 多岐な価値観を受け入れ、互いを尊重し合う文化の醸成に貢献

□ 横浜・紅葉ヶ丘まいらん他、地域連携の取り組み

今年度は、当事業の取り纏めを行う幹事館を担い、PRグッズと広報動画の新規作成、紹介マップの更新やホームページの新設等の情報発信の整備、また、参加5館を繋ぐイベントとしてのスタンプラリー開催への調整役を務めました。その他連携事業として、出張ワークショップや各種情報提供を通して、これまで築いてきた関わり合いを伸長し地域の文化芸術に関する機運を高める活動に注力しました。今年度は、特に開館60周年を契機としての共催事業を学校法人岩崎学園、横浜トリエンナーレ組織委員会、横浜シティガイド協会等と実施し、今後の連携への足掛かりを作りました。

④ アートを楽しむことができる環境づくり

□ いらぐちギャラリー、美術図書コーナー設置、自主事業アーカイブ整備など

新型コロナウイルス感染症対策がウィズコロナの段階に入ったこと、今年度が当館60周年に当たることを機に、提案書に掲げた新規事業である「いらぐちギャラリー」、「美術図書コーナー設置」を実現し、誰もが気軽に当館に足を踏み入れることが出来るエントランスロビーの拡充を図りました。また、開館以来60年間に開催された展覧会、講座、ワークショップなどの600件以上に及ぶ自主事業の記録を4年間かけ整備し公開。当アーカイブでは、事業の基本情報のほか、開催当時のチラシや案内葉書のイメージ等も閲覧可能となりました。※アーカイブは、適宜拡充を継続していきます。

エ 使命2の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
同時代の多岐にわたる表現を多角的に紹介【新・今日の作家展】	<ul style="list-style-type: none"> ・注目度の高い若手作家二名、スクリプカリウ落合安奈氏、布施琳太郎氏が出品し、布施氏は当館開設60周年に関連した新作を発表しました。落合氏は自身のルーツ・ルーマニアへの長期滞在後初の大型展示となりました。 ・初の試みとなる出品作家二名によるミニトークを会期初日に開催しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・今日の作家展」史上二番目に多い入場者数4,732名、顧客満足度は最も高い4.81を獲得しました。 ・来館者からは密度の濃い展示内容や鑑賞体験について高評価が寄せられ、当館の企画力と展示構成の工夫が来館者満足度の向上に寄与したことが確認できました。 ・ミニトーク開催時に取材が複数入り、新聞2紙の掲載に繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に人気作家の出品がかなうかは難しいことから、受託いただける企画力や多くの方にご覧いただく発信力を磨く必要があります。 ・遠方作家の招へいや展示プラン実現のための会場構成費等の予算がひっ迫していますが、近年助成金の獲得が難しい。獲得へ向けた一層の工夫・努力が必要です。 ・ミニトークは作家同士が二名であり、以前から知合いだったことで実現しました。 ・今回の入場者獲得には作家二名のSNS発信も大きく寄与しましたが、施設広報の工夫・強化も必要です。
芸術文化に親しみ、集い、様々な背景を持つ人との交流を促す【大人のためのアトリエ講座】	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した人気講座を継続しながら、1日で完結する講座や初心者向け講座を開催。 ・「リトグラフ体験～レクチャー&キッチンリトグラフ～」や「銅版画石膏刷り」ではコレクション画像をつかって版画技法を紹介しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全講座で定員を超える応募があり、アンケート顧客満足度は過去最高の評価（顧客満足度平均4.81）を得ました。 ・初心者向けの講座の開催を通じて参加者層の拡大と芸術文化へのアクセシビリティ向上に貢献しました。 ・定員をコロナ前の水準に戻して開催した「レクチャー建築でひもとく横浜」では84名の方に参加いただき、多くの方に横浜の歴史と横浜市民ギャラリーの歩みを感じてもらうことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報では、チラシ配布が効果的である事がうかがえる一方、印刷費や輸送費が高騰し続けているため、効果的なチラシ送付先や印刷部数の検討が必須。 ・新規利用者はウェブサイトでの申込が多いため、SNSを活用した情報発信が引き続き必要です。
多様な価値観を受け入れ、互いを尊重し合う文化の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の取り纏めを行う幹事館として、一年を通して全体の進行管理、情報集約と発信など、調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・PRグッズと広報動画の新規作成、紹介マップの更新やホームページの新設等の情報発信の整備により、広く活動を周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、学校、店舗など地域へのアプローチを徐々に増やしていますが、更なる地域への働きかけが課題です。

に貢献【横浜・紅葉ヶ丘まいらん】	を担当。 ・クイズを楽しみながら参加できるスタンプラリーを参加館ならびに地域の神社とともに実施、同時期にパネル展や新規の合同イベントを開催しました。	した結果、スタンプラリー参加者から「これまで“まいらん”を知らなかったが、はじめて参加し楽しかった」との声をいただきました。	
アートを楽しむことができる環境づくり【いりぐちギャラリー】	・エントランスホールに、展示ケースによる小展示「いりぐちギャラリー」を開設しました。 2024年4月に60周年を迎えた横浜市民ギャラリーの歴史やこれまでの活動を、写真やパンフレットなどの資料を展示しました。	・当館のことを知っていただく「いりぐち」となりました。 ・市民ギャラリーの歴史を知っていただくだけでなく、同時期に開催中の企画展に合わせた内容とすることで、当館が長年取り組んでいる事業について理解を深めていただく機会となりました。 ・展示ケース一台で収まる構成とし、解説文も平易なものを心がけた結果、来館者の方に手軽に見ていただけました。	・来館者への周知が課題です。展示場所が来館者の導線から少し外れた場所にあるため、気付かずに通りすぎてしまうことがあります。看板パネルの工夫や、SNS等での周知が必要です。

(3) 使命3 収蔵作品の活用を通じて、文化芸術活動への興味を引き出す契機となる

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R4 実績	R5 達成 指標	R5 実績	R6 実績	R7 実績	R8 達成 指標	R8 実績
1	コレクション展への来館者数	4,842 人	4,000 人以上	3,333 人	3,689 人	—	4,000 人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	4.5	満足度 調査平均 4.5 以上	4.6	4.7	—	満足度 調査平均 4.5 以上	—
3 ★	本施設ホームページ収蔵作品紹介「今月の1点」への来訪者数	1,689 件	3,000 件	1,439 件	4,341 件	—	3,800 件	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	収蔵作品 の状況把 握	R 4 実績	作品の点検、確認を行い各種データに反映の実施
		R 5 達成指標	作品の点検、確認を行い各種データに反映
		R 5 実績	作品の点検、確認を行い各種データに反映の実施
		R 6 実績	作品の点検、確認を行い各種データに反映の実施
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	横浜市と以降5年の作品修復計画を協議
		R 8 実績	—

ウ使命3を達成するために重点的に取り組んだ事項

①豊かな収蔵作品の魅力を伝える

□ コレクション展 2025「コレクションの地層」

開館60周年となる今年度のコレクション展では、所蔵作品の収集過程に着目したトピックを通し、その幅広い魅力を紹介しました。所蔵する約1,300点のコレクションは主に、1964年の開館から1990年代半ばまでの間に企画展や国際交流展の開催を機として収蔵されました。本展では、当館が桜木町駅前に所在した最初期に収集された絵画などの作品、二代目市民ギャラリー時代に開催された「ヨコハマ漫画フェスティバル」での横浜にまつわるコマ漫画コレクション、そして1980年代後半よりまとまった収集が行われ、コレクション内で最多点数を成す写真作品を展示しました。小特集では、当館とゆかりの深い画家・福島瑞穂の作品を取り上げました。30年以上にわたり集積されたコレクションの歴史を感じながら、その地層の断面を探索するように楽しめる当展覧会は、大変好評を博しました。また、ボランティアの鑑賞サポーターによる、作品の紹介文執筆や来場者との作品を介した交流、職員引率による小学生たちと展覧会や館内を巡るツアーなども実施しました。例年ご要望のあった作品解説文の文字を大きくし、アクセシビリティ向上にも取り組みました。

②幅広い年代の方々に、所蔵作品の魅力を伝える

情報誌やホームページに加え、エントランスのモニター、送迎車において収蔵作品とその解説を上映する取り組みを実施しました。毎年、夏に開催している「横浜市こどもの美術展」内でのイベントとして開催し好評を得ている「こどものためのコレクション展」も継続して行い、子どもたちとその親世代と一緒に所蔵作品に親しむ機会を提供しました。また、横浜シティガイド協会主催の所蔵作品に描かれた風景を巡るツアー企画実施への協力を通し、幅広い層への興味喚起に努めました。

③収蔵作品を計画的かつ適切に管理・保存し、次世代に継承

経常的に専門業者への委託による作品修復を実施しました。これに加え、専門家のレクチャーを受けた職員達による自前クリーニングも行うことで作品保全に努めました。また、修復が済んだ作品を中心に画像の新規撮影を行い、アーカイブの充実を図ると共に、ホームページにおける検索システムの充実を推進しました。

エ 使命3の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
豊かな収蔵作品の魅力を伝える【コレクション展】	<ul style="list-style-type: none"> ・開館60周年と関連し、コレクション展の内容をコレクション形成の経緯を辿るものとし、副題「コレクションの地層」のもと実施。 ・鑑賞サポーター活動では、3回目となるイベント「おしゃべりの日」の実施内容・研修において、これまでの参加者の意見を踏まえ新たな方法を取入れて実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期コレクションの様相や、漫画コレクションの一部、写真コレクションの変遷を紹介する機会となりました。 ・テーマ設定により、展示が久しぶりとなる作品を出品することができました。 ・昨年比10%増の3,689名の入場者となりました。 ・顧客満足度は4.67と高いものでした。 ・来館者からは、鑑賞体験に対する高い評価が寄せられ、コレクションの多様性が来館者に新たな発見をもたらし、芸術文化への関心を高める契機となりました。 ・鑑賞サポーター活動においては幅広い年代の方が参加し、世代を超えた交流と学びの場として機能するとともに、地域に根差した文化活動の推進に寄与しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前に比べ来場者の低迷傾向が続いています。同時期の貸館展覧会内容に卒展が増えていることから、同世代へのアプローチなど、多くの方にご覧いただくための工夫や広報強化が必要です。
幅広い年代の方々に、収蔵作品の魅力を伝える【コレクション活用講座】	<ul style="list-style-type: none"> ・「新・今日の作家展2022」出品、2023年度大人講座講師をつとめた詩人の大崎清夏氏を講師に迎え、コレクション展関連ワークショップ「絵画の地層、ことばの地層」を開催しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者の顧客満足度4.96と、高いものでした。 ・美術作品鑑賞と連詩の作成は2023年度大人講座でも試みましたが、今回は展示中の実際の作品を見ることができ、より充実した内容となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者は10名と限定的でしたが、ブログで様子を公開しました。このような参加者以外への発信を今後も継続します。
収蔵作品を計画的かつ適切に管理・保存し、次世代に継承【収蔵作品の管理】	<ul style="list-style-type: none"> ・IPMを取入れ、収蔵庫や館内環境を維持。 ・文化財IPMコーディネーター資格を持ったスタッフや施設管理スタッフを中心に月1回の環境会議を開き情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・移転時に損傷度や大きさ等のため燻蒸した作品215件について、順次クリーニング・修復を進めたため、未処置のものは令和6年度末で91件になりました。 ・当館の収蔵作品データを全国 	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫内の温湿度は安定しているとはいえ、設備員の手動操作で目標値に近づける努力をしているが、根本的な解決には空調機器の取替えが必要です。 ・損傷度やサイズが大きな作品の修復・クリーニングが後に残

	や環境維持に役立っています。 ・移転時に行った全点検査および令和2年度におこなった抜粋調査をもとに、計画的に修復・クリーニングを進めている。可能な作品・箇所については自前とクリーニングも取り入れ実施しています。 ・日々収蔵作品データを管理・更新しています。	美術館サーチ「SHUZO」に提供し、確認を経て12月に公開されました。	りつつあり、費用、期間、スペースが従来よりもかかるために実施計画の検討が必要です。
--	--	-------------------------------------	---

(4) 使命4 文化活動を切り口として、次世代育成を中心にあらゆる人を受け入れる

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	次世代育成を目的とした事業への参加人数	4,138人	15,500人以上	10,762人	10,820人	—	15,500人以上	—
2	来場者(参加者)の満足度(アンケート調査)	満足度平均4.9	満足度平均4.5以上	4.8	4.9	—	満足度平均4.5以上	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	参加者の声(インタビュー調査)	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	インタビュー調査実施、ニーズ・課題を把握
		R 5 実績	実施
		R 6 実績	実施
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	参加者の声を運営に反映
		R 8 実績	—
2★	事業に参加した親子、職業体験参加の生徒・保護	R 4 実績	実施
		R 5 達成指標	結果分析、事業見直し、企画立案
		R 5 実績	実施
		R 6 実績	実施

者(特別支援 学校・養護学 校)へのアン ケート実施	R 7 実績	—
	R 8 達成指標	事業一部リニューアルまたは新規事業開始
	R 8 実績	—

ウ使命4を達成するために重点的に取り組んだ事項

①子どもたちが表現活動に取り組み、芸術文化に身近に触れる機会の提供

□ 横浜市こどもの美術展 2024

横浜市内在住・在学の12歳以下の子どもたちより1,485点のご応募をいただきました。今年のテーマ「ひと」部門では、自分や家族の姿、楽しかった思い出の場面など、様々な捉え方で「ひと」を表現した作品が集まり、「自由テーマ」部門には好きなものや表したいものを思い思いに描いた作品が並びました。関連イベントとしては、当館所蔵作品による「こどものためのコレクション展」では、「ひと」をめぐるアーティストの表現を、作品カードをヒントにご覧いただきました。子どもにとって慣れない芸術鑑賞を楽しんでもらうための工夫として、会場では、インターンが作品を見ながら来場者と会話を交わす鑑賞をサポートも実施。そこから気づきを得てあらためて作品を鑑賞する来場者の姿も見られました。

自由参加ワークショップでは、開館60周年を迎えた当館のこれまでの展覧会ポスターを材料に、人の顔を自由に創作するとともにポスター展示も実施。ワークショップ運営では、中学生以上の幅広い年代のボランティアが来場者を温かく迎えました。

□ ハマキッズ・アートクラブ

年少児から小学生までを対象にした、気軽に参加できる1回完結型のワークショップを計10回開催しました。対象年齢に応じた素材を用いた、絵画や立体などさまざまな造形活動は、どれも応募者が募集人数を上回る結果となり大変好評でした。家庭では困難な美術の専門的技術の教示だけでなく、子どもの自由な表現を認める場をつくることに努めた。今後も、子どもたちが「自分で考える」「自分できめる」「自分でする」ことの楽しさや醍醐味を体験し、自立心を養うことを目的とした、次世代育成に資する当事業の充実を目指していきます。

□ 横浜市芸術文化教育プログラム

本事業にコーディネーターとして参画し、学校教育の現場に子どもたちとアーティストとの出会いを創出するアウトリーチプログラムを計3校実施しました。また、個別支援学級、障害のある子どもたちへのアーティスト派遣も積極的に行いました。各校の要望をヒアリングし、子どもたちの日常に新たな体験や視点をもたらす内容を念頭に参加校とアーティストを繋ぐ役目を着実に務め、どの受入校からも好評を得ました。

②若手芸術家による作品発表の支援

□ U35 若手芸術家支援事業：使命1の欄で記載

③あらゆる人の参画、学び、交流の場の創出

□ インターン、ボランティア、職場体験受入

インターンは4名を受入れ、収蔵作品のデータ管理やアーカイブ形成に関するコレクション管理業務、子どものワークショップ企画や運営等について学ぶ機会を提供しました。参加インターン全員が主体的に関わり、それぞれのアイデアを取り入れたワークショップ展開が図られるなど、受入れ側としても、多くの気づきを得る機会となりました。

「横浜市こどもの美術展」「コレクション展」においては、市民ボランティアが活躍する場を提供し、ボランティア活動を通じて美術への興味を深め、人とのつながりや生きがいを育む機会を設けました。また、普段交流の少ない年代の人々が集い協働する場をつくることにより世代間交流促進にも寄与しました。

エ 使命4の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
子どもたちが表現活動に取り組み、芸術文化に身近に触れる機会の提供【横浜市こどもの美術展】	<ul style="list-style-type: none"> ・展覧会テーマを「ひと」とした。出品数は前年から99点増え、1,485点となりました。 ・関連イベントとしては例年開催しているワークショップのほか、こどものためのコレクション展も開催され、学生インターンの活躍の場となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来館者数は10,377人。顧客満足度は平均4.93で非常に高い評価を得ました。 ・展覧会を通じて、子どもたちの表現力の豊かさが来館者に伝わり、次世代育成事業としての本事業の意義が高く評価されました。 ・年齢の異なる子どもたちの作品を展示することで、来場者に対して子どもの成長を実感する機会を提供できました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出品数は前年より増加したが、団体からの出品と比べて個人からの出品が減少しました。チラシの配架場所や枚数を見直すなど、出品数の維持に努めます。 ・自由参加ワークショップは子どもだけでなく大人も楽しめる内容としたが、1人あたりの所用時間が想定よりも長かったため、土日には順番待ちの列が長くなってしまった。土日には作業机を増やすなどの対応や、回転率等も考慮する必要があります。
あらゆる人の参画、学び、交流の場の創出【大学生・大学院生インターンの受入れ・ボランティア活動】	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども向け事業企画・運営活動」では、ハマキッズ・アートクラブの運営補助や「横浜市こどもの美術展」関連イベント「ききたがりお兄さん&お姉さんと話そう!」での鑑賞サポートを実施。 ・青少年センター子どもフェスティバル出張ワークショップの企画・運営をインターン生がおこないました。 ・「コレクション管理・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども向け事業企画・運営活動」を通し、子どもとの関わり方、年齢に応じた活動の展開や素材の特性等を学ぶ機会を提供することができました。 ・「コレクション管理・事業アーカイブ構築補助活動」では、学芸業務について理解を深めるきっかけをつくることができました。 ・子ども向け事業企画のインターン生からは、子どもたちの成長に立ち会うことで自身の視野が広がり、新たな学びを得る 	<ul style="list-style-type: none"> ・募集当初は応募者数が少なかったため、予定していた応募締切を延長しました。今後は募集情報の発信方法や募集時期、活動内容についての検討が必要です。

	<p>事業アーカイブ構築補助活動」では、コレクションや作家にまつわる情報の整理やデータ管理・更新、IPM 自主点検の体験など、学芸業務に携わる機会をインターン生に提供しました。</p>	<p>ことができたとの声が寄せられ、次世代育成事業の実践現場がインターン生のキャリア形成に寄与したことが確認できました。</p> <p>・コレクション管理・事業アーカイブ構築補助活動では、「今日の作家展」のアーカイブ作業を通じて、日本の現代美術が展開していく当時の雰囲気伝える写真に触れる貴重な体験が得られたとの報告があり、美術館の資料保存・活用の意義がインターン生の学びに直結していることが確認できました。</p>	
--	--	--	--

(5) 使命 5 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0 件	0 件	0 件	0 件	—	0 件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	100%	—	100%	—
3	修繕予算の執行率	138%	90%	100%	156%	—	90%	—
4	自主的な収入を得るための取組と目標額	1,802 万円/ 年	1500 万円/ 年	1,601 万円/ 年	1,629 万円/ 年	—	1500 万円/ 年	—
★ 5	IPM (総合的有害生物管理)の手法による環境管理の実施率	100%	100%	100%	100%	—	100%	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	実施手法等について検討
		R 5 達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R 5 実績	実施
		R 6 実績	実施
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	ヒアリングを行い、必要と判断される案件について対応
		R 8 実績	—

ウ使命5を達成するために重点的に取り組んだ事項

①保守管理業務、環境維持管理業務、保守警備業務

築 37 年を迎えている施設の状況を把握し、必要性や緊急性を要する修繕については遅滞なく対処し、快適な施設環境の提供とお客さまの安全を第一とした運営を心掛けました。特に、長期的な持続可能性を高めるための修繕や計画について横浜市と協働して取り組みました。

市民の貴重な財産である収蔵作品を将来に亘って状態良く受け継いでいくために、気候の変動やカビ・害虫などからの影響を受けない収蔵環境の構築に、施設内外と連携を図り尽力しました。IPM（総合的有害生物管理）では、施設内の情報共有を密にし、所蔵作品の環境維持に対する意識を高く保つため、共同事業体による月 1 回の環境管理会議を継続し情報共有・環境改善に役立てています。

②防火・防災対策、緊急時の対応、その他施設管理に関する事項

法定の防火・防災訓練を 8 月と 1 月に実施しました。特別な訓練時に留まらず、全体会議などにおいて防災意識を共有すると共に、平常運営における大前提として、緊急時への対応に関する事項を念頭に置き運営にあたっています。

エ 使命5の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
保守管理業務	法令等に則った施設の保守、点検や日々の予防的修繕などの維持管理に努めました。小さな気付きに早急に対処することで、大きな事故を未然に防ぐよう努めました。	日々の施設設備点検を行い、利用者、来館者ともに安全で快適な環境を維持しました。（施設の管理瑕疵に起因する事故件数0件の達成）	築年数が経過することで増えていく修繕箇所に対処することが困難になっていくことが懸念されるため、長期的な設備保全に向けて取り組みます。

環境維持管理業務	温湿度管理や虫の侵入、カビを発生させないための施設管理を心掛けました。	日々収蔵庫や展示室内の温湿度管理に気を配りました。また毎週の展示室撤去作業の際に掃除機をかける等を行い、環境を維持しました。	地下階の収蔵庫や展示室の温湿度管理は継続して人的な対応が必要となります。また天候による温湿度の管理にも配慮が必要です。加えて環境維持に要するエネルギー負荷の増大も懸念されます。
防火・防災対策	年2回の防火・防災訓練を実施するとともに月1回の全体会議の際にも知識を向上させる取り組みを行いました。	法定の防災訓練だけではなく、月1回の全体会議の際にも、消火器や消火栓の位置確認を行うなど、知識の向上に努めました。また帰宅困難者の受入施設としての物品の受入を行いました。	職員の出勤人数が少なかった場合の災害対応や帰宅困難者をどこまで受け入れられるかのシミュレーションが必要です。

(6) 使命6 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

指名6を達成するために重点的に取組んだ事項

新型コロナウイルス感染症について、最新の注意と情報共有に努め、迅速に対応する

感染症防止対策の徹底

新型コロナウイルス感染症自体は、「第5類」となり「ウィズコロナ」の生活様式にフェーズが移行しましたが、館内における適切な衛生管理を徹底しました。

エ 使命6の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
新型コロナウイルス感染症について、細心の注意と情報共有に努め、迅速に対応する。	来館者、利用者がともに安心して過ごせるよう、衛生管理に努め適切な対策を行いました。	アンケート結果の快適性が4.41と高評価を得、きちんと消毒されていて安心という声もいただきました。	その時々状況に応じた対策を取っていく必要があります。

6 その他使命の令和6年度における成果と課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
組織的な施設運営	<p>月1回のギャラリー内全体ミーティングやチームミーティングの開催により、課題や取組について情報共有するほか、財団主催による研修の内容を共有しました。</p> <p>1/30には外部専門家を講師として招聘し「防災気象講座」をスタッフ対象の研修として実施しました。</p>	<p>R6年4月に施行された改正障害者差別解消法、同11月に施行されたフリーランス法など法令改正について知識を深めスタッフの施設運営に対するスキルアップをはかりました。</p> <p>1/30に実施した「防災気象講座」では気象情報、防災情報の基礎知識から市民ギャラリー周辺の土地の成り立ち、土砂災害のリスクなど施設運営上有益な情報を得る貴重な機会となりました。</p>	<p>シフト勤務のため全スタッフの情報共有の機会が少ないことが課題です。平素よりスタッフ間でのお客様対応等の情報共有や業務のローテーションで個々の経験値を高めることにより、スタッフのスキルの平準化を図り、常時高いレベルの利用者サービスを提供できる施設運営の保持に向け、引き続き取り組みます。</p>
施設全体の運営に対するアイデア・ノウハウの一層の活用	<p>60周年を迎える横浜市民ギャラリーを記念して横浜シティガイド協会が昭和の横浜風景を絵と写真でめぐるガイドツアーを企画、当館は共催し企画に協力しました（12/1）</p>	<p>ガイドツアーでは初代、2代目ギャラリー跡を辿りながら収蔵作品を通してかつての街の風景を紹介し、当館に到着した後は学芸員がツアーで紹介された作品等に関するミニ講座開催。当館の魅力を知っていただく新たな街歩きイベントとして好評を得ました（42名参加）</p>	<p>約1300点の有数のコレクションの魅力と当館の歴史を多くの市民に届けるコンテンツの企画には、地域の多様な団体との連携強化が必要です。横浜シティガイド協会との連携については今後も可能性があると考えます。</p>
指定管理料のみに依存しない収入構造、経費削減等効率的運営の努力	<p>利用料収入は令和5年度に続き予算を達成しました。</p> <p>光熱水費については記録的な夏の暑さに加えて冬季の乾燥により予算を超える支出となりました</p>	<p>施設利用料金のみならず駐車場利用収入についても予約車以外にも積極的に受け入れ増収となりました。</p>	<p>展覧会等助成金については採択事業の傾向を把握するなど分析に努め引き続き獲得に取り組みます。</p> <p>特に電気料金は契約容量（デマンド）を超過したことから基本料金が上がり今後の光熱水費高騰への影響が懸念されます。引き続き施設管理部門のノウハウを活かして節減に取り組みます。</p>

令和6年度 「横浜市民ギャラリー」 収支予算書及び報告書

収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	153,931,901		153,931,901	154,019,901	88,000	横浜市より
利用料金収入	12,700,000		12,700,000	12,920,800	220,800	施設利用料、駐車場収入
自主事業収入	1,374,000		1,374,000	1,551,600	177,600	受講料
雑入	1,923,000	0	1,923,000	1,813,316	109,684	
印刷代	40,000		40,000	39,510	490	
自動販売機手数料	160,000		160,000	181,020	21,020	
その他(助成金・協賛金等)	1,723,000		1,723,000	1,592,786	130,214	助成金、雑収入、広告料等
収入合計	169,928,901	0	169,928,901	170,305,617	376,716	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	76,959,000	0	76,959,000	72,357,147	4,601,853	
給与・賃金	63,720,000		63,720,000	60,606,872	3,113,128	実配置による実績/展覧会看視員等人件費含まず
社会保険料	8,848,000		8,848,000	8,484,079	363,921	
通勤手当	1,367,000		1,367,000	1,520,996	153,996	
健康診断費	40,000		40,000	36,839	3,161	
勤労者福祉共済掛金	48,000		48,000	48,000	0	
退職給付引当金繰入額	2,936,000		2,936,000	1,660,361	1,275,639	実配置による実績
事務費	3,324,901	0	3,324,901	5,335,357	2,010,456	
旅費	150,000		150,000	135,934	14,066	
消耗品費	213,901		213,901	1,621,019	1,407,118	パソコンソフト、アトリエ用テーブルの購入等
会議賄い費	0		0	0	0	
印刷製本費	150,000		150,000	109,372	40,628	
通信費	700,000		700,000	767,627	67,627	郵便料金、配送料金の値上げ
使用料及び賃借料	793,000	0	793,000	601,112	191,888	
横浜市への支払分	123,000		123,000	122,760	240	目的外使用料
その他	670,000		670,000	478,352	191,648	
備品購入費	0		0	704,000	704,000	大型プリンターの購入
図書購入費	0		0	0	0	
施設賠償責任保険	33,000		33,000	43,901	10,901	
職員等研修費	10,000		10,000	2,400	7,600	
振込手数料	135,000		135,000	79,250	55,750	
リース料	1,079,000		1,079,000	1,168,505	89,505	
手数料	25,000		25,000	21,675	3,325	
地域協力費	36,000		36,000	36,000	0	
その他支出	0		0	44,562	44,562	美術館協会会費等
事業費	14,166,000	0	14,166,000	13,479,307	686,693	
自主事業費	14,166,000		14,166,000	13,479,307	686,693	展覧会看視員等人件費含む
管理費	62,236,000	0	62,236,000	62,663,781	427,781	
光熱水費	10,100,000	0	10,100,000	11,649,411	1,549,411	
電気料金	6,800,000		6,800,000	7,778,629	978,629	夏の高温による冷房運転日の増加と冬の乾燥による加湿器の稼働増加による
ガス料金	2,710,000		2,710,000	3,243,047	533,047	上記と同理由による
水道料金	590,000		590,000	627,735	37,735	
清掃費	0		0	0	0	その他保全費に含む
修繕費	471,000		471,000	734,800	263,800	電動シャッターの蓄電池期限切れによる交換
収蔵作品点検・修復費	1,200,000		1,200,000	1,536,700	336,700	
機械警備費	0		0	0	0	その他保全費に含む
設備保全費	50,435,000	0	50,435,000	48,742,870	1,692,130	
空調衛生設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
消防設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
電気設備保守	0		0	0	0	その他保全費に含む
害虫駆除清掃保守	700,000		700,000	551,210	148,790	その他保全費に一部含む
駐車場設備保全費	0		0	0	0	その他保全費に含む
その他保全費	49,735,000		49,735,000	48,191,660	1,543,340	清掃費、機械警備費、空調衛生設備保守、消防設備保守、電気設備保守、害虫駆除(一部)、駐車場設備保全費、送迎車委託費、廃棄物処理、PC保守等
負担金	30,000		30,000	0	30,000	
公租公課	7,008,000	0	7,008,000	6,477,239	530,761	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	6,960,000		6,960,000	6,400,508	559,492	
印紙税	25,000		25,000	28,000	3,000	
その他(法人住民税・電波使用料)	23,000		23,000	48,731	25,731	
事務経費 (計算根拠を説明欄に記載)	6,235,000	0	6,235,000	6,235,000	0	
本部分	6,235,000		6,235,000	6,235,000	0	
当該施設分			0	0	0	
支出合計	169,928,901	0	169,928,901	166,547,831	3,381,070	
差引	0	0	0	3,757,786	3,757,786	

自主事業費収入				1,551,600		
自主事業費支出				13,479,307		
自主事業収支				11,927,707		
管理許可・目的外使用許可収入				181,020		
管理許可・目的外使用許可支出				122,760		
管理許可・目的外使用許可収支				58,260		